

終戦直後の沈没船調査へ

水中写真家が小樽出発

【小樽】太平洋戦争で海底に沈んだ船の撮影を続ける水中写真家、田中正文さん(四七)

胆振管内洞爺湖町に居る。田中さんが二十九日午前、借り上げた漁船で現場海域に向かい、同行したダイバーが事前調査のために潜水。三十日には船内を撮影する。田中さんは二〇〇二年、パラオの海底で軍艦群に出合ったのを機に撮影活動を開始。昨年、山口県沖に沈む戦艦「陸奥」を調査し、八

真岡丸は一九四五年十二月、小樽市高島の沖合五キロで、進駐軍の指令で旧軍の砲弾などを海中投棄中に誤爆し

月にNPO「水中文化立した。出港前、田中さんめ跡を示し、慰霊の意環境調査協会」を設んは「撮影は戦争のつ味がある」と話した。



真岡丸の調査に向かうため、漁船に献花台などを積み込む田中さん(左)＝29日午前8時50分、小樽市祝津